

令和 8（2026）年度 第 1 回 柏崎市環境審議会 議事概要

市民生活部環境課環境政策係

このことについて以下のとおり報告します。

- 日 時 令和 8（2026）年 8 月 31 日（月） 13：30～15：30
- 会 場 クリーンセンターかしわざき 2 階 会議室
- 出席者
 - 委 員 伊藤会長、鈴木委員、佐藤委員、徳永委員、高埜委員、蒼原委員
 - 阿部委員、柳委員、村山委員、内山委員、梅田委員、若月委員、今井委員、
 - 事務局 星野市民生活部長
 - （環境課）重野課長、今井課長代理、西村係長、佐藤係長、尾崎専門員、若林主事
- 議事概要

	1 開会
	2 市民生活部長あいさつ
	3 審議会委員及び事務局員 自己紹介
	4 会長・副会長選出 伊藤会長・阿部副会長選出
	5 議事 報告事項 （1）環境課の所管事務の概要と進捗状況
事務局	事務局が【資料 1】に沿って説明した。
委員	・資料 1－2「クリーン推進係所管事業」 1－(2)リユースについて、リユースプラットフォーム「おいくら」は、どのようなサービスか？
事務局	・リユースしてもらいたい品物を登録し、リサイクル事業者が手上げをするとお渡しできる。手軽にできるリユースの手段の一つ、きっかけとして提供している。
委員	・岩手県大槌町から受け入れている東日本大震災の瓦礫について、受入れ当初は、放射線の測定をしていたようだが、現在も実施しているのか？
事務局	・受け入れた瓦礫は、放射線量を測定し焼却した。全て下限以下であることを確認している。当時、災害廃棄物ではなく、放射性廃棄物になるのではないかとの新潟県の意見もあり、実際に、当市に入ってくる廃棄物の量は少なかった。 ・焼却した後の灰も測定し、影響がないことを確認した。最終処分場での埋立ても特

	殊なフレコンバッグに入れて埋めている。埋立てから１０年間最終処分場の放射線量を測定し問題ないことを確認している。
委員	・緑のカーテンについて、団体として、約１０名が参加した。
事務局	申込書と報告書について、どちらも申請者欄は事業者・団体と書いてあり、個人名を書く欄がない。個人用と事業者・団体用を分けるよう書式を改めるべきではないか。 ・また、不明な場合は、インターネットで調べるように言われるが、高齢者は、知りたい情報に行き着くことができないことが多い。 ・申込書と報告書の修正を検討したい。 ・広報かしわざきの紙面で、全て掲載することは難しいため、詳細についてはホームページに掲載するようにしている。 ・電話や窓口等でお問い合わせいただければ対応するので、御自身に合った方法で御利用いただきたい。
委員	・「おいくら」について、買取り専門店と競合し、トラブルになるのではないかと？
事務局	・買取り専門店は古物商であり、事業目的が異なる。「おいくら」についてはリユースの一環として提供している。
事務局	・換金目的か、リユースを目的としたものの違いであり、目的を明確化して進めているものであると理解いただきたい。
委員	・環境課の業務対象範囲が、ごみから有害鳥獣まで幅広い。対象業務を分ける考えはあるか？
事務局	・幅広い分野を所管しているが、どれも市民生活にとって欠かせない分野であり、職員一人一人が責任をもって業務を行っている。 ・１つの課で全ての問題が収まることは少なくなってきたおり、市役所の中で組織が連携して対応していくことが重要である。御指摘の点を踏まえ、市民生活に支障がないようにやっていきたい。
委員	・カモシカの日撃情報について教えてほしい。
事務局	・特別天然記念物に指定されており、所管は博物館である。 ・詳細な目撃件数は承知していないが、今年度、第四北越銀行に侵入した際も、麻酔の措置をして、山に返した。有害鳥獣ではないため、生息すべき所に返している。
委員	・里山を生かした自然体験を行っているが、参加者から、有害鳥獣の心配の声をよく聞く。自分達でも調査を行い、寄せ付けない工夫をしているが、環境課の方で、有害鳥獣と遭遇した際の対処法の研修等を行っているか？
事務局	・研修等は行っていない。現状、正しい知識の周知に努めているところである。

委員 事務局	・ニホンジカの脅威を感じている。市内でのニホンジカの生息地域は、南部方面か？ ・柏崎市内でも南部の地域で生息しているが、米山のふもと上越方面から、生息が広がってくることも心配している。今年度、山口地区でカメラを設置し、現状確認を開始したところである。 （２）柏崎市環境基本計画第３次計画 進行管理報告 柏崎市地球温暖化対策実行計画 進行管理報告 環境マネジメントシステム（かしエコ）編 進行管理報告 事務局が【資料２－１、２－２、２－３】に沿って説明した。 質疑なし （３）新ごみ処理場整備の進捗状況 事務局が【資料３】に沿って説明した。
委員 事務局	・公設民営と考えてよいか？ ・修繕料については、２０年先を見込むことができるか？ ・BDO方式であり、公金を使って建設するため、公設民営と言える。 ・メーカーも経験を積んできており、BDO方式は２０年が基本である。２０年を超えるとリスクが出てくる。建設する会社が運営することで、適切な運営ができると考えている。 ・事業者選定に当たっては、２０年後の返却時に、その後も事業が継続できるよう要求水準書で条件を定めており、一定の能力に戻してから返却する契約となっている。
委員 事務局	・現施設の半分の処理能力になるとのことだが、ごみの受入れも半分にする必要があるのではないか？ ・総排出量が落ちている。リサイクルが進んで燃やすごみも減ってきている。 ・平成４（１９９２）年頃には、１日当たり処理能力１６０トン必要だったが、現状、最大８０トンあれば経年でやっていけると判断している。 （４）柏崎市資源物・ごみの分別ガイドブック発行 事務局が【資料４】に沿って説明した。
委員	・１０ページのプラスチック製容器包装について、その他プラスチックの分別が、間違いが多く問題になっている。今回とても分かりやすく、よくできていると思った。
委員	・３４～３５ページについて、カラーの色が強すぎると目の悪い人は見えにくい。コントラストが強いので、赤色の強さを抑えられるといいのではないか。

事務局	・修正可能か確認したい。
委員	6 その他 ・道の駅「風の丘米山」周辺について、環境面の保全が必要であると感じている。
事務局	・所管する道の駅「風の丘米山」整備推進室に対して、再整備と併せて環境面の保全等も進めていけるように意見があったことを伝えたい。
委員	・食品ロスの取組について、企業・団体だけでなく、個人も参加できることになったと考えてよいか？
事務局	・市のホームページで食品ロスの取組ページを作成し、個人の取組シートを掲載させていただいた。個人で自由に実践して欲しい。 ・委員所属の団体には、担当課を通して、取組シートの電子データを送付させていただきたい。
	7 環境課長あいさつ
	8 閉会
	以上